東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

教育系サブジェクトリポジトリとしての展開：第2期CSI委託事業の成果：機関リポジトリの更なる普及と新たな価値創出に向けて：A-2
サブジェクトの力：特定コミュニティに「使われる」リポジトリ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高井, 力 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/107389

第2期CSI委託事業の成果
～機関リポジトリの更なる普及と新たな価値創出に向けて～

A-2 サブジェクトの力：特定コミュニティに「使われる」リポジトリ

教育系サブジェクトリポジトリとしての展開

平成22年6月22日

東京学芸大学 教育研究支援部　情報基盤課 学術ポータル係
高井 力

本日の内容

- 教育系サブジェクトリポジトリを立ち上げた目的
- 事業の概要
  - 第1期CSI時代の検討
  - 教育系サブジェクトリポジトリとは
  - 教育情報メタデータ記述指針(案) ／ システム実装
- 第2期CSI事業とコンテンツの増加
  - H20 :記述指針のオーソライズとシンポジウム、システム公開
  - H21 : 参加方法ページ公開とワークショップ
    新規参加機関とコンテンツの増加
    アクセス統計機能実装
- 今後の展開
  - 事業の継続性
  - 今後の課題

教育系サブジェクトリポジトリを立ち上げた目的

- 教育情報の提供（E-TOPIA ― 現職教員等をターゲットとした電子図書館運営の流れ）
- 第１期CSI事業(H18)に公募し、機関リポジトリを展開するにあたり教育系の大学としてなにかできないか

事業の概要

- 第1期CSI時代の検討
  - H19 国立教育系大学協議会での議論

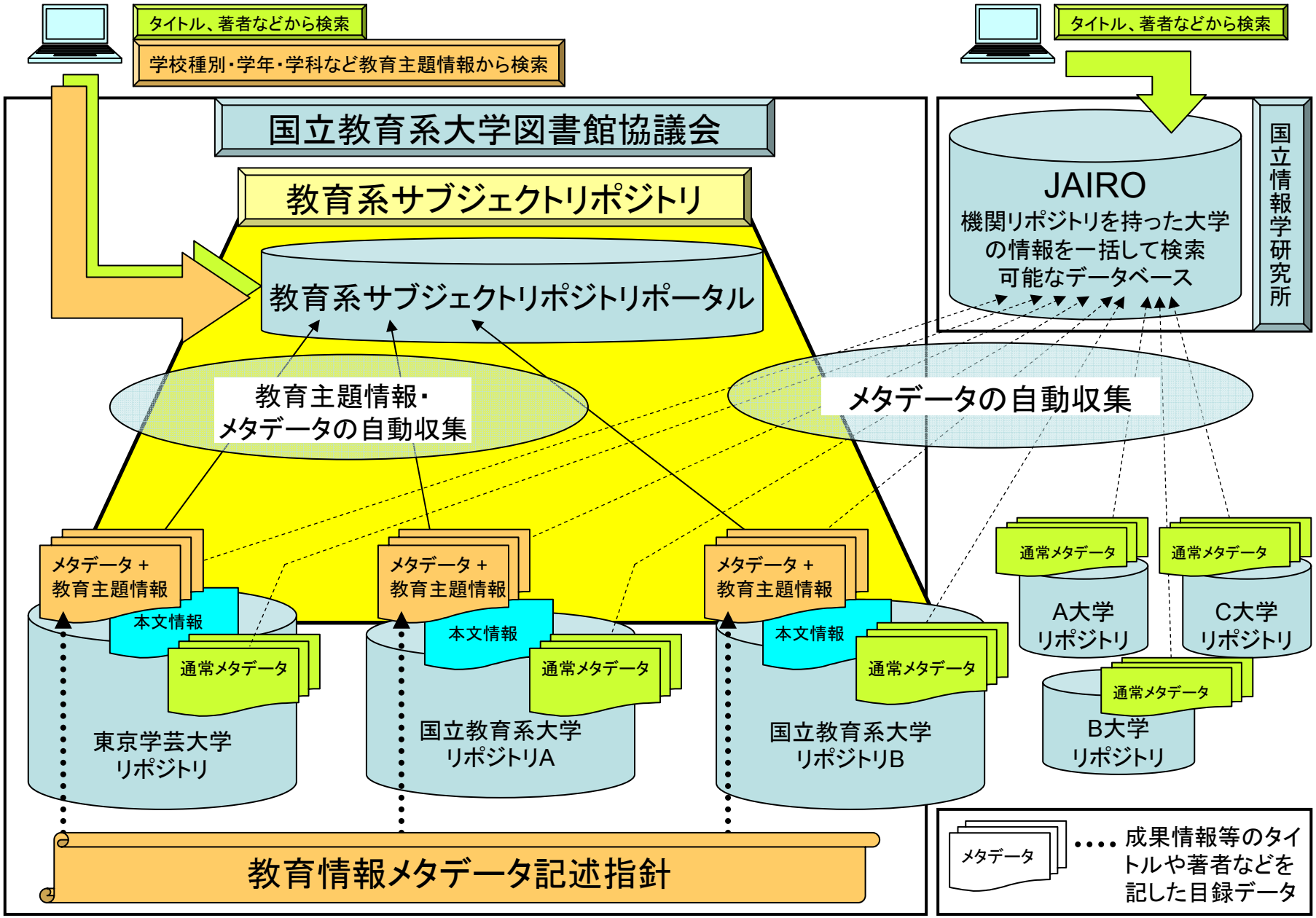
    → 共有リポジトリではなく各機関でリポジトリを立ち上げ

    → 教育主題情報を記述する指針の作成を検討

    → 指針に従って記述されたメタデータを収集するシステムの構築(学芸大)

    → H19年度に3大学の協力を得て実験を実施

教育系サブジェクトリポジトリ 概念図



教育系サブジェクトリポジトリとは
― その仕組み ―

学芸大にあるのは「サブジェクトリポジトリポータル」
教育系サブジェクトリポジトリはどこにあるか

- 学芸大にあるのは「サブジェクトリポジトリ**ポータル**」
  ならば「教育系サブジェクトリポジトリ」とは
  → 参加している機関リポジトリの教育関連のコンテンツの集合

- 「サブジェクトリポジトリ**ポータル**」とは
  → 参加している機関リポジトリの教育関連のコンテンツを集めて
  教育系サブジェクトリポジトリとして機能させるもの
  教育系サブジェクトリポジトリの基盤となるもの

教育情報メタデータ記述指針

- 既存のメタデータの項目(Subjectなどの項目) に、データの内容としてそのデータが何を表すかを記述する。既にあるメタデータの記述の枠組みは変更しない。

記述の例)　Subject: STYP:中学校

※「STYP:」が、このデータが学校種別（小学校・中学校等）のデータであることを示す。

記述の例2)　　Subject: SSUB:理科

※「SSUB:」が教科を表し，理科を主題とするデータを表す。

システムの実装：教育系サブジェクトリポジトリポータル

- 教育主題があるメタデータのみ収集（『ETYP:』というデータを持つもののみ収集)
- 多くのリポジトリが標準で持っているデータ自動収集の仕組み(oai_dc)を利用
- 標準の仕組みを利用するためデータを収集される側のリポジトリでは改修が不要
- 教育主題から検索するインターフェイスを実装

第2期CSI事業とコンテンツの増加

- 平成20年度
  - 10 / 23 記述指針のオーソライズ
    国立教育系大学図書館協議会総会において
  - 12 / 18　活動促進としてシンポジウム開催
    「教育系サブジェクトリポジトリの可能性を求めて」
  - 3月 システムの公開
    初期参加館は東京学芸大、大阪教育、奈良教育、兵庫教育
    7月～9月にシステム改修について意見聴取
    システムに改修を加えて公開

シンポジウム（平成20年度）

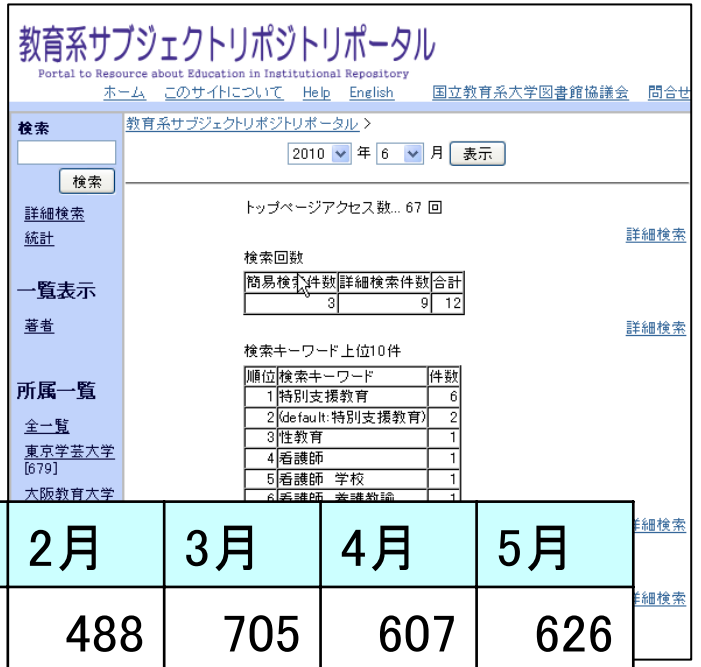
- 「教育系サブジェクトリポジトリの可能性を求めて」
- 講師3名による講演
- 担当者による事業説明
- パネルディスカッション
  - 教育系サブジェクトリポジトリの方向性について議論（教育系コンテンツの対象、対象利用者）

- 平成21年度
  - 7月 CSI報告会に合わせ「参加方法」のページ公開
  - 8月 愛知教育大学参加
  - 12月 ML立ち上げ
  - 12 / 22 教育系サブジェクトリポジトリワークショップ
  - 12月 統計機能の実装
  - コンテンツ拡充
    5大学で1,800件を超える
  - ハーベスト実験中が2機関

ワークショップ（H21年度）

- 事前にML開設
- 対象: 実務担当者中心
- 参加: １１名
- 一人に1台PCを用意ペーパーレスで実施
- 実習 ＋ 記述指針の問題点について討議
  - 「教育実践」の扱いなどが問題
- 統計機能デモ

統計機能実装 (アクセス分析)



- アクセス分析
- コンテンツ増加につれアクセス増
- 検索エンジンからのアクセスが多い
- 検索はある程度は利用されている

	2月	3月	4月	5月
トップ	488	705	607	626
検索	103	160	125	171
主題検索	19	20	17	20
本文への参照	5	12	16	9
総アクセス数	1785	2322	2519	2461
（内おそらくクロール）	1668	2107	2339	2225

今後の展開

- 事業の継続性
  - 学内予算の確保
  - リプレイス時に図書館システムの組み入れを検討
  - 記述指針の継続的見直し
    - 国立教育系図書館協議会などで
  - 安定した人材の供給

（基準の今後と他の規格との関係）

- 入力や開発コストを最小限にするため、既存のDspace 標準の Dublin Core にはめ込んでいる。LOM(Learning Object Metadata) とは別路線
- 教材だけでなく、論文の扱いも検討が必要
- 将来的には歴史的な教科書も扱う必要があると考えられる
- 語彙の選択については日本についての文献については「教育指導要領」がもととなっており、ある程度の互換性はある
- データに意味的情報を付加しておけば将来的な変換は可能

- 今後の課題
  - ハーベストエラーへの対応
  - 事業評価の継続　統計システム調整
  - 参加機関拡大とコンテンツの拡充
  - 記述指針の継続的見直し

ご清聴ありがとうございました